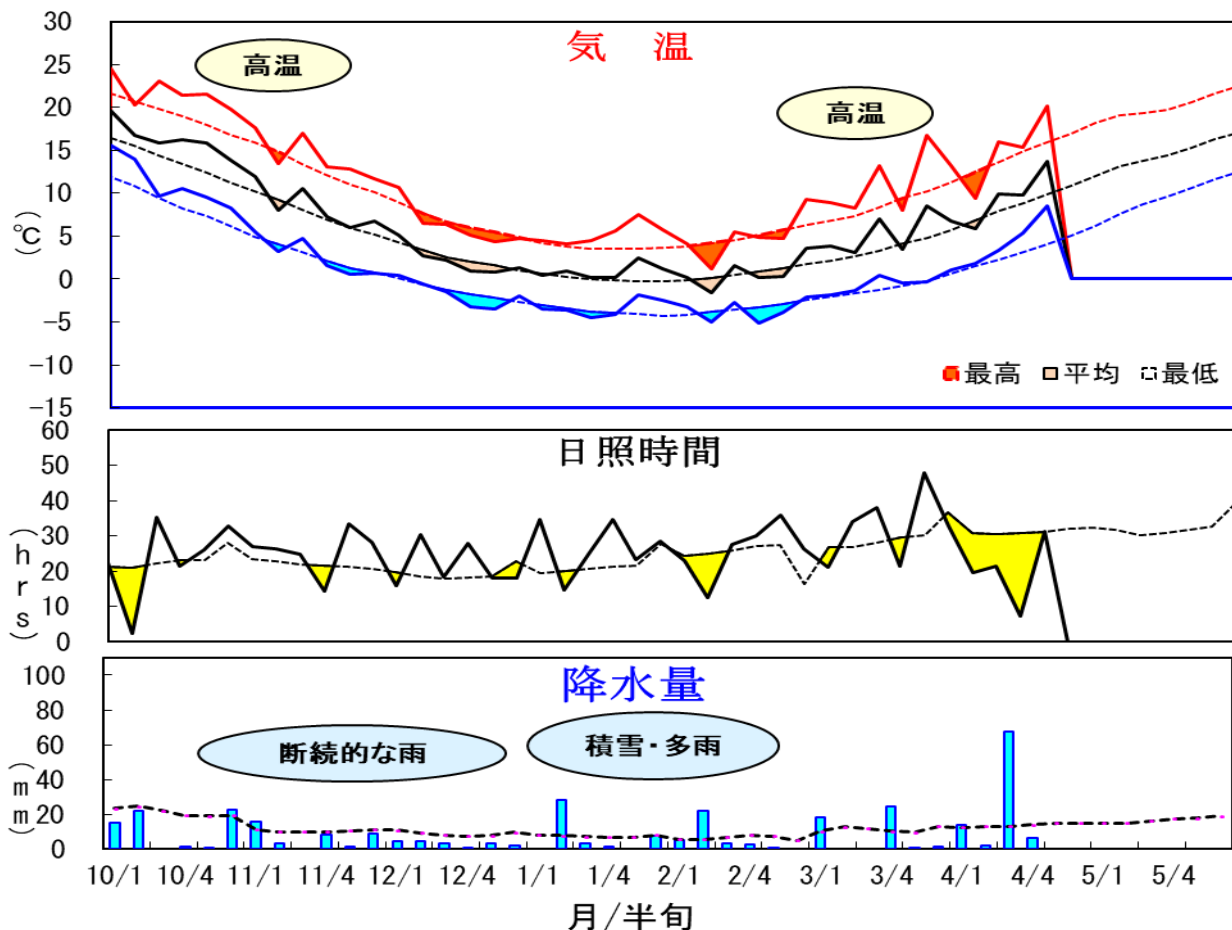


麦作情報第4号

令和7年 4月22日：JA全農みやぎ

出穂期・開花期は概ね平年並みの見込み！
追肥や赤かび病の防除は タイミング良く実施しよう！

1 これまでの気象経過（古川アメダス）



2 東北地方の1か月予報【4月19日～5月18日までの天候見通し 気象庁HPより】

- ・天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込み。
- ・気温は、高い確率 60%、平年並みの確率 30%、低い確率 10%。
- ・降水量は、多い若しくは平年並みの確率 30%、少ない確率 40%。
- ・日照時間は、多い若しくは少ない確率 30%、平年並みの確率 40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 04/19～05/18	10 30 60
		1週目 04/19～04/25	10 10 80
		2週目 04/26～05/02	20 40 40
		3～4週目 05/03～05/16	20 40 40
降水量	東北地方	向こう1か月 04/19～05/18	40 30 30
日照時間	東北地方	向こう1か月 04/19～05/18	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3 生育状況

(1) 古川農業試験場内 作況試験ほ（4月10日調査）

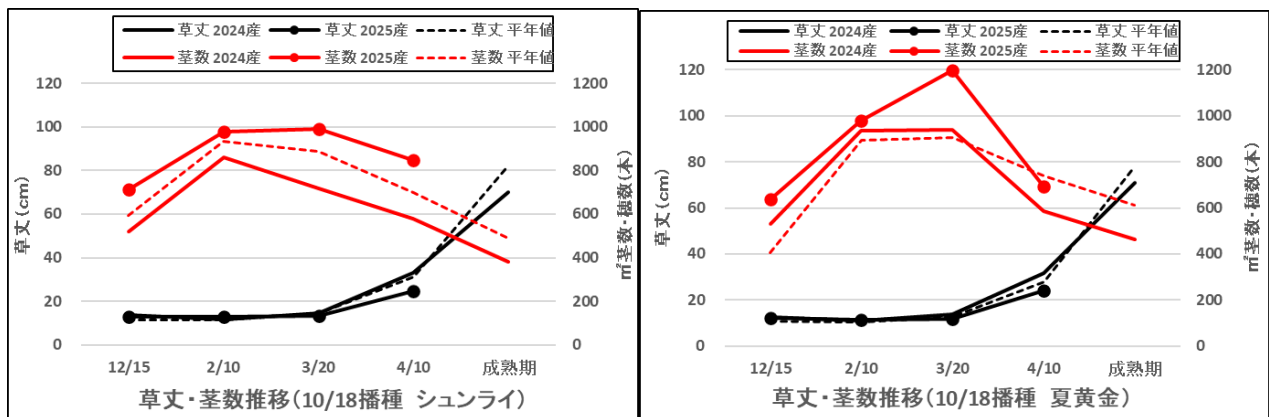
- ・草丈は平年よりやや短く、茎数はいずれの品種も平年を上回っている。葉数は、大麦では平年よりやや多く、小麦は概ね平年並みである。

	品種・区分	草丈			茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/㎡)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)
大麦	シュンライ 中旬	24.6	74	79	847	147	121	10.7	-1.1	0.7
	同 下旬	17.8	59	70	782	125	122	9.6	-1.2	0.8
	ミノリムギ中旬	23.7	68	76	862	141	110	10.5	-1.1	0.2
	同 下旬	20.3	62	81	951	125	136	9.6	-0.8	0.7
小麦	シラネコムギ中旬	28.9	90	98	728	134	105	9.2	-1.5	-0.3
	同 下旬	22.6	71	92	973	121	122	8.9	-0.7	0.5
	夏黄金 中旬	24.0	76	86	694	118	94	9.1	-1.4	-0.5
	同 下旬	23.0	82	103	1016	109	138	8.5	-0.9	0.4

注1) 中旬は10月18日, 下旬は10月31日に播種。

注2) 平年値は, 過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

- ・草丈及び茎数の推移を図に示した（古川農業試験場作況試験ほ調査結果より作図）。草丈は、シュンライ・夏黄金ともに平年よりやや短い。茎数は、シュンライは平年より多めに推移している。夏黄金も平年より多めだが、4月10日調査では平年並みになっている。なお、この傾向は、ミノリムギ、夏黄金も同様であった（データ略）。



- ・幼穂長は、大麦では平年よりやや短く、小麦は概ね平年並みである。

	品種・区分	幼穂長		
		本年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)
大麦	シュンライ 中旬	18.8	-32.8	-1.1
	同 下旬	8.4	-25.0	-1.8
	ミノリムギ中旬	13.0	-16.6	-3.3
	同 下旬	7.5	-18.1	-0.5
小麦	シラネコムギ中旬	5.3	-4.6	-0.5
	同 下旬	4.6	-3.2	0.4
	夏黄金 中旬	6.3	-5.9	-1.1
	同 下旬	5.0	-3.7	0.4



【作況試験 シュンライ 10月18日播種】



【作況試験 ミノリムギ 10月18日播種】



【作況試験 シラネコムギ 10月18日播種】



【作況試験 夏黄金 10月18日播種】

(2) 麦類種子生産ほ巡回時の幼穂長観察調査(4月15～16日調査)

- ・大麦は、播種の遅かったほ場で概ね減数分裂期に入っている。
- ・小麦は、幼穂形成期を過ぎて、これから減数分裂期に入る見込みである。

調査日	品種名	市町村名	播種日	幼穂長(mm)
4/15	シュンライ	石巻市	10/22	25.0
4/15	ホワイトファイバー	石巻市	10/20	50.0
4/16	ホワイトファイバー	大河原町	11/12	15.0
4/15	ミノリムギ	石巻市	10/18	50.0
4/15	あおばの恋	登米市	10/27	2.0
4/16	シラネコムギ	大崎市	10/17	1.5
4/15	夏黄金	登米市	11/11	3.0
4/16	夏黄金	涌谷町	11/1	3.0
4/16	夏黄金	大崎市	12/5	2.0

(3) 今後の生育ステージ予測(作況試験ほの4月10日調査データによる)

- ・出穂期及び開花期は、大麦・小麦ともに、概ね平年並みの見込みである。

	品種・区分	減数分裂期			出穂期			開花期		
		本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)	本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)	本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)
大麦	シュンライ 中旬	4/12	4/4	4/12	4/21	4/15	4/23	4/28	4/22	4/30
	同 下旬	4/22	4/8	4/18	4/29	4/20	4/28	5/5	4/22	5/4
	ミノリムギ 中旬	4/17	4/10	4/17	4/26	4/19	4/28	5/3	4/25	5/4
	同 下旬	4/23	4/12	4/21	5/2	4/21	5/2	5/7	4/26	5/6
小麦	シラネコムギ 中旬	4/25	4/18	4/24	5/5	4/26	5/3	5/15	5/5	5/13
	同 下旬	4/26	4/21	4/26	5/6	4/28	5/7	5/17	5/6	5/16
	夏黄金 中旬	4/24	4/17	4/24	5/3	4/26	5/3	5/14	5/5	5/13
	同 下旬	4/26	4/20	4/26	5/4	4/28	5/6	5/15	5/6	5/15

注1) 平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

注2) 減数分裂期: 幼穂長が30mmに達した日。

注3) 出穂期: 全茎の40～50%が出穂した日。

注4) 開花期: 全穂数の40～50%が開花した日。

注5) 予測値は予測シートver4.0を用いた値。

注6) 中旬播種区は10月18日播種、下旬播種区は10月31日播種。

4 今後の技術対策

(1) 排水対策

- ・麦類は節間伸長期から登熟期にかけては、特に湿害に弱い。粒の充実不良により千粒重が軽くなり、収量・品質が低下する。また、水田の代かき等により隣接ほ場から横浸透によって水が浸入するので、明渠等の排水対策を徹底する。

(2) 追肥（小麦のみ）

- ・追肥の目安については、下表を参照のこと。なお、大麦は、追肥の適期を過ぎている。

追肥の種類 (生育ステージ)		減数分裂期 (幼穂長30mm)	穂揃期 (8～9割が出穂)
目 的		一穂粒数の増加 登熟良化	小麦の子実タンパク質 含有率の向上
小麦	時 期	4月下旬～5月上旬	5月中旬
	10a当たり 施用量	窒素成分4～5kg (硫安20～25kg)	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg) ※「夏黄金」は2倍

(3) 赤かび病の防除

- ・赤かび病は、開花期前後に降雨が続く、かつ気温が20～27℃程度の場合に発生が多くなる。
- ・宮城県病害虫防除所が発行した発生予察情報第1号によれば、麦類赤かび病の「発生時期」及び「発生量」は、「平年並み」となっている(令和7年4月17日発行)。
- ・防除適期は、1回目が開花始期～開花期(開花小穂率30～50%程度)、2回目がその7～10日後で、降雨が続く場合は追加防除を検討する。特に、1回目の防除は適期を逸しないこと。
- ・令和5年産、令和6年産の麦類は、出穂期が早く、防除のタイミングを逸した事例がみられた。本年の出穂期は概ね平年並みと見込まれるので、幼穂長で生育ステージを確認し、タイミング良く防除を実施する。
- ・製パン適性の高い「夏黄金」は3回防除を基本とし、3回目は2回目の7～10日後に実施する。

(4) 収穫の準備

- ・成熟期の判断基準は、「茎葉及び穂首部が黄化し、粒はほぼロウぐらいの固さに達した日」とされており、一般的には大麦では出穂後約40日～45日、小麦では45日～50日である。
- ・収穫適期は、成熟期から約3～4日後で、穀粒水分30%以下が望ましいとされているが、降雨が見込まれる場合には、作業を早める必要がある。
- ・出穂期及び開花期が平年並みと見込まれることから、成熟期も概ね平年並みと推測される。収穫機械及び設備の整備は、計画的に行う。